

取扱施工説明書

施工・使用前に必ずお読みください。

お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。
また、本書は別紙「安全上のご注意」とあわせてご使用ください。

このたびは、当社製品をお買い求めいただき、まことにありがとうございました。

製品仕様

取付穴径	33~35ミリ
取付厚	5~35ミリ

製品同梱明細

施工前に、下記の同梱部材がそろっていることをご確認ください。

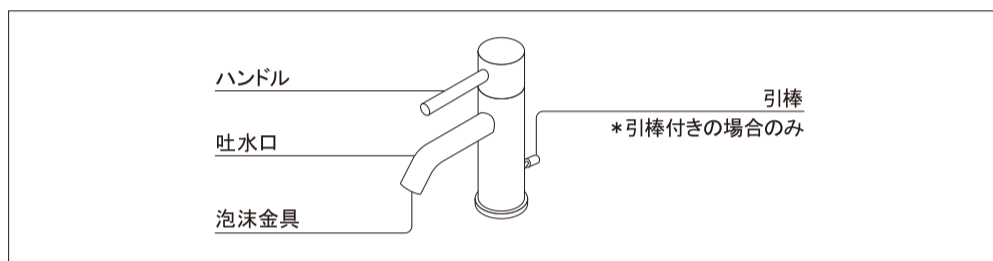
共通同梱部材

- 水栓本体 ●ジョイント金具(2個) ●クリップセット(2個) ●六角レンチ
- 取扱施工説明書 ●安全上のご注意 ●保証書

引棒付き製品の同梱部材

- 引棒 ●引棒用連結金具

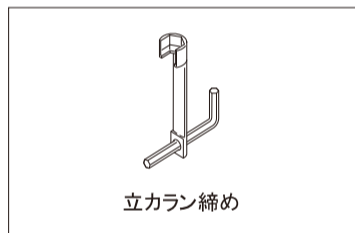
各部のなまえ



*品番によって図と製品の形状が一部異なります。

施工の前に

準備するもの

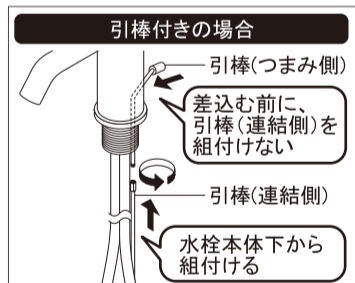


- *左記に加えて、
- モンキーレンチ
- マイナスドライバー(*引棒付きの場合のみ)をご準備ください。

施工方法

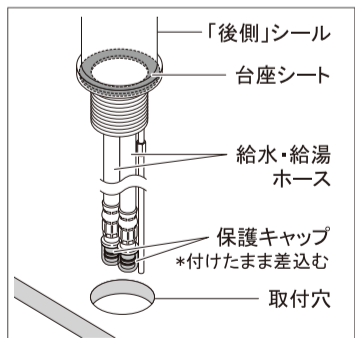
*数秒間水を通し、配管内のゴミなどを洗い流してから、止水栓または元栓を閉じて取付作業を行ってください。

1. 水栓本体を取付けます。

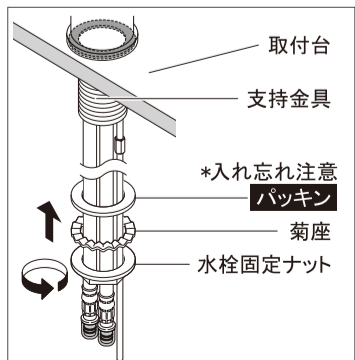


- ①引棒付きの場合は、先に引棒(つまみ側)を水栓本体に差込みます。次に、引棒(連結側)を水栓本体下から組付けます。
*水栓を取付台に設置する前に作業してください。
*品番によっては、引棒(つまみ側)があらかじめ組付けられている製品もあります。

必ず実行 引棒を差込む際は、差込前に必ず引棒(つまみ側)と引棒(連結側)に分解し、正しく差込んでください。故障・作動不良の原因となります。



- ②水栓本体を設置する取付穴の穴径を確認し、穴周囲が汚れていないか確認します。
- ③水栓本体底部に台座シートが付いていることを確認し、水栓本体が正面を向くように取付穴に差込みます。
*台座シートに剥離紙が付いている場合は剥がしてから取付穴に差込んでください。
*給水・給湯ホースの保護キャップはジョイント金具に接続するまで外さないでください。
*「後側」シールが貼付けられている場合は、そちら側を真後ろにします。
*水栓取付位置がシンク・洗面手洗器中央でない場合は、吐水口位置・回転角度に合わせて位置を決めてください。



- ④支持金具にパッキン・菊座を順に通し、水栓固定ナットを「立カラン締め」などでしっかりと締めて、水栓本体を確実に固定します。

施工方法(つづき)

1. 水栓本体を取付けます。(つづき)

必ず実行	●水栓本体を固定した後に、位置を調整しないでください。無理な力が掛かり、器具の破損やゆるみの原因となります。 ●水栓本体が取付穴の中心にくるように固定してください。偏って取付けると、確実に固定されない恐れがあります。
禁止	水栓本体を固定する際は、レバーハンドル部を持って締付けしないでください。カートリッジに無理な力が掛かり破損する恐れがあります。
注意	水栓本体が正しく固定されていないと、ガタつきや取付台下への漏水、部品損傷の原因となりますのでご注意ください。

2. 給水・給湯ホースを取付けます。

①ジョイント金具にパッキンをはめ込み、止水栓にしっかりと締付けます。

注意 パッキンの入れ忘れにご注意ください。漏水の原因となります。

②給湯・給水ホース先端の保護キャップを外し、Oリングに傷がないか確認します。

オリングにゴミや傷が付かないよう注意する

③給水・給湯ホースをジョイント金具にしっかりと締付けます。

必ず実行 給水・給湯ホースをジョイント金具に差込む際は、Oリングを傷つけないように、垂直にゆくりと差込んでください。

注意 ホースの「湯・水」シールを確認し、逆配管にならないように接続してください。

④給水・給湯ホースがジョイント金具に正しく差込まれているか確認します。

両ツバ部を合わせる

⑤クリップの溝に、両ツバ部(給水・給湯ホース側とジョイント金具側)が収まるようにクリップをはめ込みます。

⑥キャップをクリップに取付けます。

必ず実行 クリップで手を切る恐れがありますので、固定後は必ずキャップを取付けてください。

⑦給水・給湯ホースを上を引き、確実に接続されているか確認します。

注意 取付けが確実でないと漏水する恐れがありますのでご注意ください。

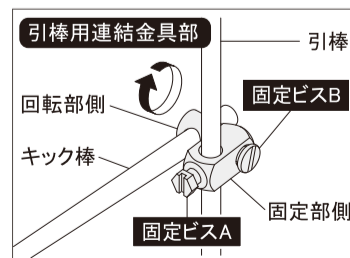
必ず実行 ●クリップが正しい位置に取付けられていないと通水時に給水・給湯ホースが抜け、漏水を起こす恐れがあります。図を参考に、確実に取付けられているかご確認ください。

●給水・給湯ホースの曲げ半径は、60ミリ以上確保してください。急激に曲げると、ホースがつぶれて通水経路を狭め、十分な吐水量を得られない場合があります。

禁止 給水・給湯ホースは根元から急激に曲げないでください。ホースに傷が付き、強度が失われたり、ホースがつぶれて通水経路が狭まり十分な吐水量を得られない場合があります。また、漏水を起こす恐れがあります。

注意 給水・給湯配管は動かないように確実に固定してください。

3. (引棒付きの場合)引棒とキック棒を接続します。



ポップアップ排水金具の排水栓を操作するために、排水金具のキック棒と水栓の引棒を接続します。排水金具のキック棒を下げた状態で、引棒用連結金具の固定ビスAを締めて、引棒に固定します。
*スムーズに作動しない場合は引棒用連結金具の固定位置で微調整してください。
*調整後は、固定ビスA・Bをしっかりと締めてください。

施工後の確認

- ①止水栓または元栓を開き、各部に漏水がないか確認します。漏水が発見された場合は、止水栓または元栓を閉じ、漏水する箇所を施工し直してください。
- ②ハンドルを操作して、湯水の混合具合を確認します。低温または高温しか出ない場合は、**こんな時には...** 簡単な点検と対処を参考に調節してください。

裏面へ続く➡

使用方法

ハンドルの操作方法

吐水・止水	湯・水
ハンドルを上げると「吐水」、元に戻すと「止水」します。	ハンドルを開いた状態で左にまわすと「湯」、右にまわすと「水」が出ます。
<p>必ず実行</p> <ul style="list-style-type: none"> ●湯をご使用時は、最初は必ず水から出してください。その後ゆっくり湯側へ開き、お好みの温度に調節してください。ハンドルを湯側から先に開くと高温の湯が出てやけどをする恐れがあります。 ●ハンドルはゆっくり操作してください。ハンドルを急に閉じると配管に衝撃が加わり、配管から漏水を起こし、家財等を濡らす財産損害発生恐れがあります。 	
<p>注意</p> <p>ハンドルを操作する際は、ハンドルと水栓本体の間に手指等をはさまないようにご注意ください。</p>	

引棒付き水栓の使用上のご注意

禁止

水栓本体の引棒穴に直接水をかけないでください。水がキャビネット内部に入る恐れがあります。

凍結防止方法

水栓周囲の温度が0℃以下になり凍結の恐れがある場合は、下記の方法で凍結を予防できる場合があります。

少量出しておく

- 配管を保温する。
- 水栓から水を少量出しておく。(目安:1分間に200ml程度)
- 外気が入らないよう窓等を閉める。

*凍結により破損した場合は、保証期間内でも無償修理の対象外となります。

お手入れ方法

泡沫内芯のお掃除

ご使用開始時に比べて著しく水の出が悪くなった場合は、吐水口先端の泡沫内芯を取外し、ゴミなどの異物を水洗いして取除いてください。

- 泡沫内芯
- 外ケース

器具のお手入れ

いつまでも美しくご使用いただくために。

- 水栓器具の金属部
ふだんは乾いたやわらかい布でみがき、ときどきカーワックスなどをしみこませた布でみがいでください。
- 水栓器具の樹脂部・塗装面
乾いたやわらかい布でお手入れしてください。汚れがひどい時は、うすめた食器用中性洗剤を含ませた布で拭き、乾いたやわらかい布で水気を拭き取ってください。

塗装剥がれ

金属たわし

メラミンスポンジ

注意

金属たわし、クレンザー・みがき粉等粒子の粗い洗剤、酸性・アルカリ性・塩素系洗剤、ベンジン、油やアルコール等は、本品を傷めますので使用しないでください。また、塗装面や印字部等にメラミンスポンジを使用しないでください。

カートリッジの交換方法

作業前に、必ず止水栓または元栓を閉じて止水してください。

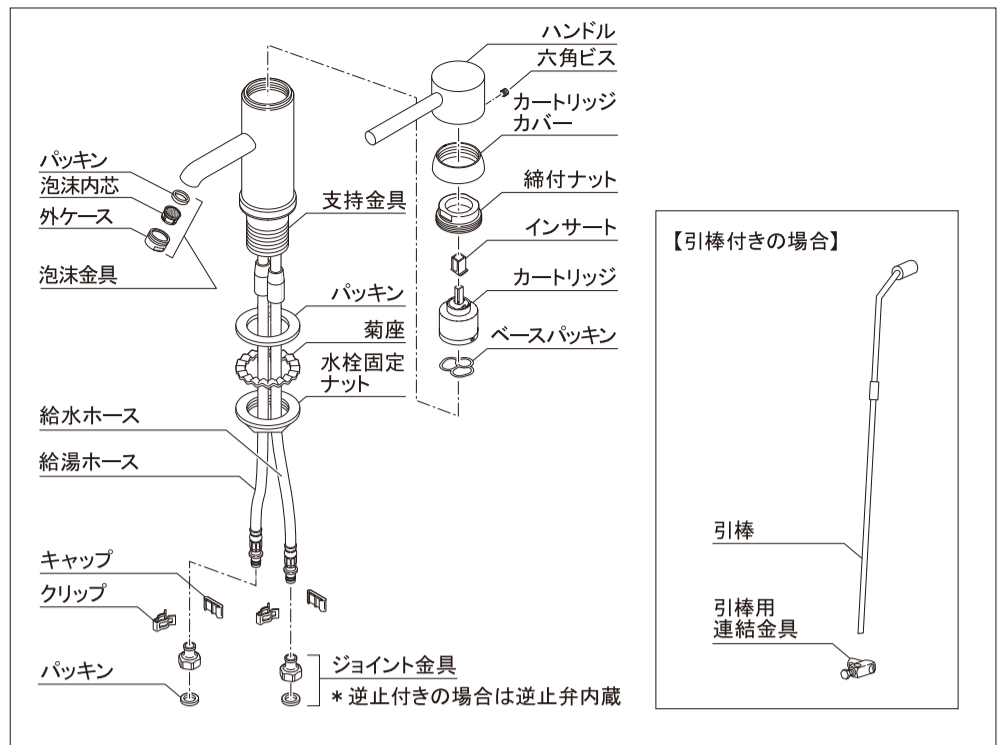
- ①「六角レンチ(同梱)」で六角ビスをゆるめ、ハンドルを取外します。
*六角ビスはなくさないようご注意ください。
- ②カートリッジカバー・締付ナットを反時計回りにまわして順に取外します。
- ③古いカートリッジを抜取ります。
- ④新しいカートリッジの底にベースパッキンが付いていることを確認後、カートリッジ底の凸部が水栓本体の凹部に合うように差込みます。
- ⑤①～②の逆の手順で組直します。

注意

- ハンドル内にインサートが残っている場合は、インサートを取外してください。
- カートリッジ底にベースパッキンが付いていることをご確認ください。
- カートリッジ底の凸部を水栓本体の凹部に合わせてください。
- 締付ナットは適度な力で締付けてください。(締付けすぎるとハンドルが操作しづらくなります。)

作業後は、必ず止水栓または元栓を開いて通水し、漏水がないことをご確認ください。

分解図



* 品番によっては図と製品の形状が一部異なります。
* 製品改良のため、部品仕様などを予告なく変更する場合があります。ご了承ください。

こんな時には… 簡単な点検と対処

機能が正常に働かない時は、修理を依頼される前に、**分解図**を参考に下記の要領で点検してください。

現象	原因	対処	
温度調整不良	高温しか出ない	水側の止水栓が閉じている 給水圧より給湯圧の方が高い	水側の止水栓を調節する 止水栓を調節する
	低温しか出ない	湯側の止水栓が閉じている 給湯圧より給水圧の方が高い 給湯機の能力(給湯機の異常)	湯側の止水栓を調節する 水側の止水栓を調節する 別紙「安全上のご注意」の「使用条件」をご参照ください。
吐水不良	吐水量が少ない	止水栓の閉じすぎ 泡沫内芯の目詰まり	止水栓を調節する 泡沫内芯を掃除する
	全く吐水しない	止水栓または元栓が閉じている 止水栓の閉じすぎ	適正水量になるまで止水栓または元栓を開く 止水栓を調節する
止水不良	止水できない	カートリッジの異常	カートリッジを交換する
	ハンドル根元から漏水	締付ナットのゆるみ カートリッジの異常	締付ナットを締める カートリッジを交換する
動作不良	ハンドルがガタつく	六角ビスのゆるみ	六角ビスを締直す
	ハンドルがかけにくい	締付ナットの締めすぎ カートリッジの異常	締付ナットを締直す カートリッジを交換する

以上の点検を行っても正常に作動しない場合は、お買い上げの販売店(水道工事店)にお問い合わせください。

分解禁止

本体内蔵のカートリッジや部品等は、絶対に分解しないでください。故障の原因となります。

修理を依頼される前に

000-000 ← 品番

お買い上げの販売店(水道工事店)にお問い合わせいただく際、水栓本体にシールが貼付けられている場合は、そちらで品番をご確認ください。



株式会社 カクダイ 本社 〒550-0012 大阪市西区立売堀1-4-4 ☎(06)6538-1124

東京 ☎(03)3552-0981 名古屋 ☎(052)504-1551 大阪 ☎(06)6730-3391 福岡 ☎(092)611-4611
広島 ☎(082)278-2821 札幌 ☎(011)704-1511 仙台 ☎(022)239-8371

0122GF

M-A6002

無断転載・複写を禁ず